

おかげさん

86号

真宗大谷派
高德寺通信
2019年 春号



一本のホウキ

昨年のある日に友人のお坊さんが
仏典童話の「絵本」を自主出版
したので、私に「絵」を描いて欲
しいとの依頼があり、引き受け
ました。今年中には出版の予定
です。そこでザクザクと……です。ご
紹介したいと思ひます。

× × ×

昔々、インドのコーサラ国という国
に、祇園精舎ぎんげんしやうじやという名のお寺があ
り、そこにしばらくお釋迦さまが
おられました。ある時一人のお坊さ
んが、ボツンとさみしそうに木陰きかげか
ら祇園精舎を眺めていました。
近づいてみるとそれはお釋迦さま
のお弟子のシユリー。パンタカでした。
「どうしたのだ、シユリー。パンタカよ、な
ぜそんなところにボツンと一人で立

ておるのだ？」とびくくりして
シユリー。パンタカがふり返ると、
そこにはお釋迦さまのお姿
がありました。涙があふん
ばかりのシユリー。パンタカの顔
を見て、お釋迦さまは「こち
らに来なさい」とシユリー。パンタ
カを促し、森の奥の小さな泉が湧
く岩の上に二人で腰をおろしま
した。「さあ、シユリー。パンタカよ
何があったのか話してごらんな。
お釋迦さまのやさしい微笑ほほえみみ
に安心したのか、ゆっくりと話し
始めました。「世尊せそんよ、私は小
な頃からもの覚えが悪く、自
分の名前すら覚えられません。
ですから兄に名札を作ってもら
って首からぶら下げています……
世尊のお弟子にさせていた
ている兄のマー。パンタカと離れ
るのが嫌で、まわりの反対を
押し切って私も世尊のお弟子
にさせていたたきました。しかし
もの覚えが悪く、先輩のお弟
子さん達についていくことが出来
ません。あまりにも何も出来な
いので、皆の笑ひものになっていま

す。やさしい兄もさすがに困り果てて
先日……お前は実家に帰って親
の手伝いをして暮らした方が良
いかもしれない……と言ひつてしま
いました。私は立派な人間にな
りたい……なりたいたんです。でも
自分の名前すら覚えることが
出来ない愚か者なんです。」と
言ひつて泣き出してしまいました。
お釋迦さまはだまえてシユリー。パンタ
カの悲しみに耳を傾けられて
おりました。そして静かに語り
かけました。「シユリー。パンタカよ
お前はちっとも愚か者ではない
ぞ。真の智者は自らの愚智に
目覚め、愚か者であるがゆえ
にその大地に立って智慧ちゐを求
め、智慧に照らされながら
生きるものだ。お前は愚か
者ではなく、真の智者になる
べき器なのだよ。」シユリー。パン
タカは驚いて聞いています。
そして二人は祇園精舎へと
戻りました。お釋迦さまは
シユリー。パンタカに「これより
お前に一つの行ぎやうをよめる。



ここに一本のホウキがある。朝から晩まで今から言う句をととなえながら、お寺の掃除をひたひた。『塵を払え、垢を除け』。これを口の中できるとなえながら掃除をするのだ。この行以外は何もする必要はない。訳が分からぬシユリー・パンタカでしたが、お釋迦さまに言われた通り、来る日も来る日もお寺の掃除をしました。最初のうち、先輩のお弟子さん達はシユリー・パンタカが頭がおかしくなったと言っていて笑っていましたが、『塵を払え、垢を除け』となえながら黙々と掃除をするシユリー・パンタカを見て、いつしか笑う者は一人もいなくなりました。シユリー・パンタカは掃除をしながら様々なことを考えていました。『毎日毎日掃除をしても、塵は次の日には積もってくる。私の心の中にも様々な欲望や悩みが起って

くる。たとえそれを解決することが出来たとしても、新たに次から次へと別な欲望や悩みの種が出てくる。まったくもって煩惱は尽きることがないや。また、ある時はこんなことを考えました。『ダンスや箱の中に入っている物には、まわりが囲んであるから、ほりがつかないと思っていたが開けてみると上にはうずらうほりをかぶっている。そのほりを取り除き注意深く閉めて。数週間後に開けてみるとほりがたまっている。』心の中も同様に煩惱のチリやほりが入りこんで積もっているのだなや。シユリー・パンタカは掃除をしながらこういった



よ

多くのことを学びました。そして、その心は深い落ち着きと掃き清められた清々しい気持ちで満ちあふれていました。それから何年もの月日が経ったある日、お釋迦さまがやってきました。『シユリー・パンタカよ、お前は私の与えた行をまもり、今日までやってきました。お前が求めていた智慧はお前の身をとおして輝き出している。もう掃除をやめても良いのだぞ。』するとシユリー・パンタカは『世尊からこのホウキと、塵を払え、垢を除け』の言葉を聞いたとき、掃除をしてみました。そして掃除をとおして様々なことが心にわき起り、智慧は生まれました。しかし心のチリは今も積もり続けています。私は生涯このホウキに支えられて歩いて参りたいと思えます。』と答えました。その時彼の姿は、誰の目にも神々しく映ってありました。おしまい。



◆おとなも子どもも一緒に赤本をひらいてお勤めします…。



2019年 1月 1日




お勤めいたしました。

今年も元旦の10時より
 高德寺の本堂において
 修正会が勤まりました。
 有缘の方々とともに、親
 鸞聖人ご作成の『正信偈』
 ならびに『同朋奉讃』を
 お勤めすることが出来ま
 した。初めてお参りされ
 る方もおりました。毎年
 お参りされるご家族のお
 子さんの成長の早さに驚
 かされますが、お顔を見
 ることが出来て、有ること
 難しのおおかげさんでありま
 す。
 来年も1/1の10時に勤ま
 りますので、ご都合宜しけれ
 ば、お誘い合わせの上、お参
 りください。お待ちしております。
 ります。







第16回 高德寺旅行会

『初夏の九州

博多・熊本・鹿児島・宮崎 をめぐる旅』

- ◆ 期 日 2019年 5月 31日(金) ~ 6月 2日(日)
- ◆ 旅行費用 お一人様 75,000円... (費用には宿泊費、交通費、食費、観光等+保険料が含まれています。今回も寺の補助が出ております。)
- ◆ 募集人員 20名
- ◆ 申し込み  4月30日(月)までに会費を添えて

お寺へお申し込みください。「申し込み用紙」は、参加希望の方へお渡します。お声掛けください。ご参加を心よりお待ちしております♪

1日目	羽田空港... 9:15(予定) ... 北九州空港 —  — 唐戸市場 (昼食・散策)
5/31(金)	唐戸 ~ 門司港 (散策) —  — 博多 (夕食・泊) ホテル
2日目	ホテル —  — 熊本城 (昼食・見学) — かくし念仏を
6/1(土)	たすねて — 霧島温泉  ・ 霧島国際ホテル泊
3日目	ホテル —  — 鶴戸神宮 — 青島 (昼食・散策) —
6/2(日)	— 宮崎空港 16:55(予定)...  ... 羽田空港 18:40 解散

春彼岸会 $\frac{3}{18}$ (月) ~ 24(日)

お中日ちゅうにちの**11:30**より本堂にて『永代えいたいきょう経』のご法要が勤まります。
 (春分の日) $\frac{3}{21}$ “永代に渡ってお経をいただく”という意味で、このご法要を通して
 代々に渡って伝えられてきたお念仏のいわれを深くたずね、仏法に
 ふりかへていただくことを願った法要です。どなたでもお参りになれます。

休憩処 → $\frac{3}{21}$ (木) と 24(日) お休み処
 (新井白石記念ホール) お待ち合わせ処
 としてご利用ください。

ご報告 & 御礼申し上げます

◆ 石井三太夫表具店
 石井弘芳・王枝ご夫妻より



高德寺第25代
 住職の法名軸
 をご寄進いた
 だきました。

◆ 海東雅子さんより



“紅白の梅”の
 “屏風”を
 ご寄進いた
 だきました。

梅の花の部分
 は、ちぎり絵
 になっています。

高さ約150cm

庫裡の2Fの廊下で鑑賞出来ます。

お磨き御礼

2018年
12月16日(日)
於本堂

石井玉枝さん
伊藤隆介さん
大森茂さん
大森ゆみこさん
海東雅子さん
菊池ギエさん
黒川晴央さん
黒川良子さん
菅原悟さん
菅原千穂子さん
杉村健一さん

塚田和子さん
塚田太郎さん
仁野平延芳さん
寛谷恵美子さん
水越拓路さん
水越和子さん
宮本真さん
宮本咲子さん
柳澤佐智子さん
山内貞子さん
(あいうえお順です)

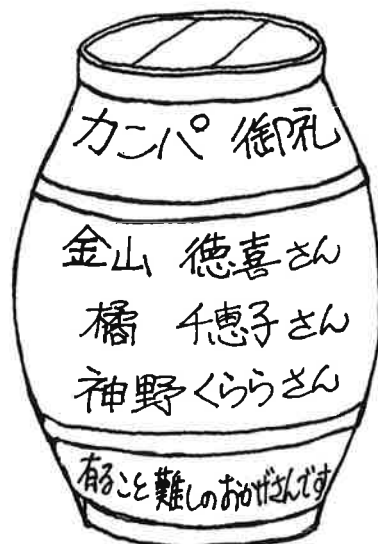


沢山の皆さまに仏具を磨いて頂き感謝です。
恒例の“望年会”を2F書院で開きました♪

ご じょう げ さ 五条袈裟ご寄進

大切な方の年回法要を機に
お寺に五条袈裟を寄進して
いたたきました。大切にさせて
いただきます。

- ◆ 海東雅子さん / 奥野登子さん
お母様の五十回忌法要
- ◆ 菊池良衣さん
お父様の一周忌法要





仏典童話『一本のホウキ』の主人公にあたる
 シュリーパンタカは、「周利槃特」(音写なので
 經典によっては「周利槃陀伽」とも書かれる)パーリ語
 ではチユラ(チマラ)パンタカ。仏弟子となったのは、兄
 マハーパンタカ(「摩訶槃特」)の勧めであるが、もの
 覚之が悪いことから、兄はみかねて実家に帰した。そ
 れを知ったお釋迦さまは、彼に一本のホウキを与え「
 塵を払い垢を除去」ととなえさせた。彼はそれにより
 落とすべき汚れとは、貪(貪欲)・瞋(瞋心)・痴(愚痴)と
 いう心の汚れ(煩惱)だと悟り、阿羅漢(仏教における最
 高の悟りを得たもの)となつたといわれている。
 絵本は現在製作中である。
 えとうご期待!! 釋義祐



(詠人不知...先輩う任職さんに教えていただいた法語)

発行日 2019.3.18 ※今号もご門徒の藤井清三さんの
 発行 真宗大谷派 高德寺 ご厚意で印刷していただきました。
 編集 任職 新井義雄(法名 釋義祐) この場を借りて御礼申し上げます。
 〒164-0002 東京都中野区上高田1-2-9

☎ 03-3368-6947
 FAX 03-3362-8019

《表紙の絵》「中啓」…扇の一種で「啓」
 は開くという意味があり、たたんでいても中は開いている
 形状から中啓といわれている。僧侶(住持・浄観)が用いる。

銅壺